

意識調査からみえてくるもの

巻頭言



福井南高等学校 2年生

森 夕乃 (もり・ゆの)

平成 17 年 12 月 22 日福井県鯖江市生まれ。
入学直後から意識調査や地層処分に関する
問題に取り組む。

昨年度実施した福井県内の高校 2 年生を対象とした意識調査『福井県原子力に関する意識調査 2021』は、原子力発電所が多く立地する福井県の嶺南と、私を含め県民の 8 割が住む嶺北とでは、エネルギーに対してどのような意識差があるのか、という疑問点から始まった。

今年度は、日本最大の電力消費圏である東京都と、日本有数の電力生産圏である福井県との意識の差について調べてみたいと東京学芸大附属国際中等教育学校有志とともに両都県で 6 月 20 日から 7 月 25 日までの期間、前回と同じく高校 2 年生を対象に実施した。結果、福井県 1,882 名、東京都 161 名の合計 2,043 名から回答をいただくことができた。福井県に限ると、回答協力校は昨年度を上回った。福井県内すべての高校が協力していただけたのである。

さて、ここでは私が特に気になった調査結果を紹介したい。なお、この調査結果は福井南高等学校の HP に掲載されているので、ぜひご覧になっていただきたい。まず質問 8「原子力と聞いた時のイメージを聞いた設問(複数回答)」である。福井県の高校生は「危険」が 77.5 % と最も多い結果となり、次点が「必要」(38.9 %)であった。対して東京都の場合は、最も多い回答が同様に「危険」(82.0 %), 次に「暗い」(47.8 %)であった。福井県をみると「暗い」という回答率はわずか 17 % であったため、この質問からは、原子力発電所の立地場所から離れるほどマイナスのイメージが強いという地域性に関する傾向が見られた。昨年度も同様の傾向がみられたが、今回はそれを更に裏付ける結果となった。

また、設問の最後には自由記述欄を設けている。当該欄への記述は、昨年度は 125 件、全体の約 7 % であったが、今年度は全体の 10 % ほどと大幅な増加となった。内容に関しても「もっと原子力について知りたい」「海外のエネルギー事情はどうなっているのか」といった教育提言が目立つ。私も小中学校では「原子力発電は危ないので再エネを使用した方がよい」と聞いたことを覚えている。今年度の報告書では、各国大使館やエネルギー分野に精通している方に取材を行い、自由記述にある「知りたい」という回答者への気持ちに伝えることで、昨年度よりも賛否にとらわれない対話の真の姿を表した報告書を作成できたと考えている。

しかし、調査範囲を広げたからこそその課題も多く浮かび上がってきた。そのひとつが、東京の回答が上手く集まらなかったことである。教育委員会や各団体へ依頼をしたものの回答数が伸びず、最終的には各校へ直接連絡をとり、担当の先生方へオンラインでプレゼンテーションをして調査に協力してもらうなどした。これも地域性の違いだと痛感した。また、この調査メンバーも増えたため、原子力発電や地層処分をめぐる問題と同じく、グループ内での合意形成が難しくなった。先輩方は受験勉強モードに入り、必然的に私がメンバーをまとめていく機会が増えた。これが大きな不安であった。しかし、自由記述にもあった多くの高校生の純粋な「知りたい」という気持ち同様、私自身も知的好奇心で行動しているし、また周りの方々にさまざまな場面で支えられて活動を続けることができている。最近では県内外で調査研究を活発に行っている高校生との交流も増えてきた。この活動から、悩んだり衝突したりして自分自身が人間として成長していると実感している。決して「楽」ではないが、これからもこの活動をこれからも「楽しんで」いきたい。

(2022 年 11 月 22 日 記)